

栃木県埋蔵文化財センターだより

やまかいどう

特集

未来へ残せ! 文化財

Part 2

遺構編 (遺構^{いこう}の切り取り・土層^{どそう}の剥取り^{はぎと})

発掘現場の最新情報!

発掘現場レポート

発掘調査現地説明会『西赤塚遺跡』

施設紹介『那須歴史探訪館』

とちぎテレビ「古墳を探る」～塚原古墳群～

野沢遺跡の住居跡
土層剥取りの模式図だよ!
詳しい話は
2・3ページを見てね。



No.
32
2003.1

未来へ残せ！文化財

Part 2

遺構編 (遺構の切り取り・土層の剥取り)

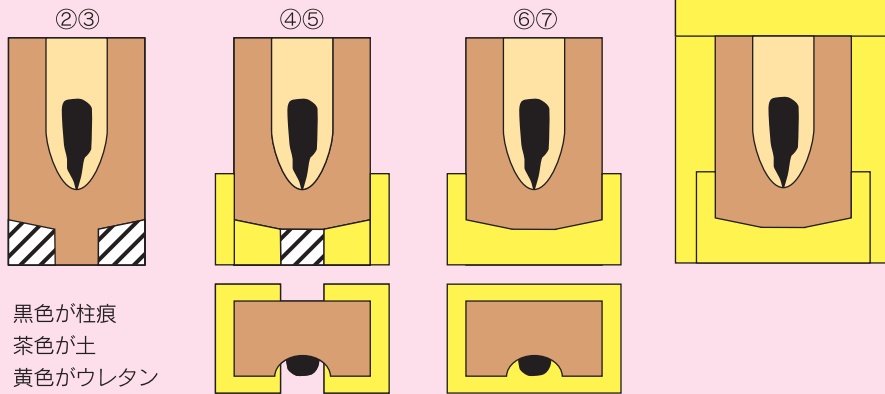
前回の保存処理分析室紹介が大変好評(えっ本当に?)だったので、予定を変えて『パート2 遺構編』をお送りしたいと思います。
 またまた難しい内容で解りにくいとは思いますが、よ〜く読んで下さいね。
 保存処理の担当者はセンターの部屋で仕事をしているだけではありません。
 遺物が、まだ発掘現場にあるうちに作業することもあります。
 今回の遺構編、遺構の切り取り・土層の剥取りは発掘現場での作業を中心としたお話です。



遺構の切り取り

前号の「強化処理」で、壊れやすい遺物を樹脂で強化して取り上げる事もあるとちょっと書きましたが、樹脂強化だけでは直接手で取り上げられない遺物があります。その場合、土ごと地面から切り取ってしまうことがあります。それが「遺構の切り取り」です。

文章だけでは分かりにくいので、野沢遺跡の場合を例にとって、写真と図で説明しましょう。



柱痕 (縄文時代草創期 住居跡出土) の場合

- ①遺物(柱痕)の周囲を掘る→
 - ②土柱にする→
 - ③底部を掘る→
 - ④ウレタンを入れる→
 - ⑤トンネルを掘る→
 - ⑥ウレタンを入れる→
 - ⑦遺物面・遺構面の養生→
 - ⑧箱状に覆う→
 - ⑨順次ウレタンを注入する→
 - ⑩遺構面上部まで注入→
 - ⑪蓋をするようにウレタンを入れる→
 - ⑫地面からの切り離し→
 - ⑬室内移動→
- ～ここまで現場作業～
- ⑭裏側の土を除去→裏打ち→土の強化→箱状→遺物掃除→完成

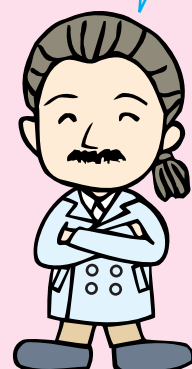
ウレタンで周りを覆えば崩れずに運べるんだ！



模式図④⑤の実際



⑧箱状に覆う



⑫地面からの切り

土層の剥取り

土の堆積の様子を見やすくするために「土層(地層)の剥取り」です。土の断面に特殊な接着剤を塗布し、布を貼り付け徐々に剥がし取ってゆくの「剥取り」と呼ばれます。

版画を想像してください。版画は版木に絵の具を塗り、紙に写し取ってゆきますが、絵の具が土層で紙が転写用布とってください。頭に浮かんだところで説明しましょう。



どうやって土を板状にするの？



①掘り下げ ②精査



③転写用布貼り

縄文時代草創期住居跡

- ①剥取り面の掘り下げ→
 - ②剥取り面の精査→
 - ③転写用布貼り→
 - ④剥取り→
 - ⑤移動→
 - ⑥転写面の精査→
 - ⑦室内移動→
- ～ここまで現場作業～
- ⑧パネルに接着→再精査→
- 表面樹脂塗布→完成

※大きな剥取りの場合は現場でパネルに接着して、分割して運び出します。パネルに接着する場合に剥取りで使用したウレタンを使用することもあります。



◀剥取りの模式図

④剥取りの実際



※剥取り用樹脂と布

水分に馴染みやすい樹脂と縮みにくい樹脂を併用します。布も寒冷紗と呼ばれる目の粗い「さらし」の様な布です。

※ウレタン

発泡硬質ウレタンフォームの略。2種類の液を混ぜてふくらませて使用する。時間が経つと非常に硬くなります。



◀土層・柱痕
県立博物館での展示



⑥転写面の精査



離し ⑬移動

いかがでしたか？前号に続き保存処理の仕事を紹介しました。

難しく面倒な作業ですが、徐々に形になっていく様子は非常に面白く、出来上がった時は“やったあ〜”と声が出そうになります。

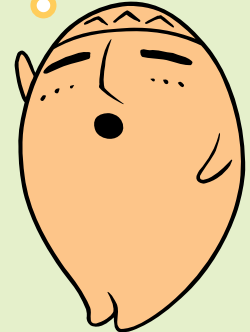
発掘現場での作業になかなか会うことはないと思いますが、このような作業をしている時に皆さんが現場見学に来られることを期待しています。

2002年 発掘現場 レポート

●2

●3 ●1
●4

遺跡には
ロマンがいっぱい
つまっています



当センターが発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。
発掘現場を見かけたらどうぞ声を掛けて下さいね。

1

のほとせき

上り戸遺跡 (芳賀町西高橋地内)

右は遺跡の調査風景を撮影した写真です。写っているたくさんの穴は、主に縄文時代の人々が木の実などを貯えたもので、600基以上確認されました。何百年に渡って作り続けられた結果、足の踏み場もないほどです。また、縄文時代の竪穴住居跡も10数軒確認され、多量の縄文土器が出土しています。

上り戸遺跡では、縄文時代の遺構について目がいってしまいますが、奈良平安時代の竪穴住居跡も9軒見つかっています。

一辺6mもある大形の住居や、カマドが作られた北壁の東側が棚状に掘り残された住居など興味深い調査結果が得られました。この住居跡の棚状に掘り残された部分からは鉄製の紡錘車が完全な形で出土しました。

紡錘車は回転する力を利用して糸を紡ぐ道具ですが、糸が鉄の軸に巻き付いた状態で残っていました。糸は写真を見ても分かるようにしっかり燃られて太いものです。

現在、調査を年明け1月いっぱい終了させるため、霜柱をふみしめ40人の作業員さんと一丸となってがんばっています。



遺跡全景 (南より)



紡錘車出土状況

《糸を紡ぐ道具》



軸は木や鉄で
作られている。

糸を紡ぐ様子



上の紡錘車の写真の円内を拡大すると、右の写真のようになります。糸の燃りまではっきり見えます。



2 かわど かまはちまん い せき 川戸釜八幡遺跡 (栗山村大字湯西川地内)

平成14年度は、川戸釜八幡遺跡・石仏Ⅰ遺跡の試掘・発掘調査を行いました。

このうち川戸釜八幡遺跡では、県内で前例のない規模で、縄文時代後期の石棺(配石)墓が12基見つかりました。石棺墓は長方形の穴を掘り、平らな石を使って周りを囲み蓋を被せたもので、中には底面に石を敷いたものなど、作り方や大きさ、向きなどにいくつかの違いが見られました。石棺墓群は調査区の東端にあたり、未調査区を挟んで西には住居群が確認されています。今後の発掘調査で、石棺墓群の広がりとともに、縄文時代の集落のようすが明らかになることでしょう。



3 にしおさかべ にしはら い せき 西刑部西原遺跡 (宇都宮市平塚町)

琴平塚6号墳出土の女子形埴輪頭部

現在、復元作業を行っている、女子形埴輪の頭部です。

西刑部西原遺跡の琴平塚6号墳から出土したもので、最初はバラバラだったものを、やっとここまで貼り合わせました。

髪の毛の部分は剥がれ落ちていますが、額には髪にさした櫛が表現されています。頸には勾玉と丸玉を交互につなげた首飾りをかけており、顔面には入れ墨と思われる模様が赤い顔料によって表現されています。今から約1,500年前に作られたもので、当時の髪型や服装を知ることができます。他にも、よろいを着た武人や馬のかたちをした埴輪の破片が見つかっており、それらが古墳の上に立て並べられ、一体となって何らかの場面を表現していたものと思われます。

たとえば、葬られた豪族の生前の生活の様子、豪族の葬式の様子なども推定されます。



頭部側面

頭部正面

4 ごりょう い せき 五霊遺跡 (上三川町東汗地内) ひがしふぞかし

「うーむ、これはなんだろう?」(平成14年2月20日の調査日記より) 北関東横断道路の予定地においては、確認調査を行っています。これは“遺跡があるかも”という場所に「トレンチ」と呼ぶ試し掘りをし、遺跡の有無や遺跡の広がり調べることです。

五霊遺跡でも、昨年の2月に確認調査が行われました(写真①)。しかし、鬼怒川の氾濫で覆われた土は、通常の遺跡とは土の色が異なり「何かあるみたいだけど、よくわかんない」といった状態でした。そして・・・10月から本格的な発掘調査が始まりました。現れたのは、1辺10m強の大きな竪穴住居でした(写真②)。大き過ぎて、中にすっぽりトレンチが入ってしまっていたのです。

この他、遺跡では平安時代の住居跡など、20数軒見つかりました。



①

②

発掘調査現地説明会

『西赤堀遺跡』

平成14年11月16日(土)



さる11月16日(土曜日)に西赤堀遺跡で発掘調査現地説明会が開催されました。当日は12月中旬並みの寒さにもかかわらず地元の方はもとより、県外からの人達も含め400人以上参加され、遺跡及び北関東自動車道の概要説明後、4班に分かれそれぞれ担当者から竪穴住居跡等の説明を受けました。

西赤堀遺跡は日本道路公団の北関東自動車道、宇都宮・上三川インター以東の建設工事に先立って当センターが昨年の4月から発掘調査を行ってきました。

その結果、竪穴住居跡(縄文時代、古墳～奈良時代)63軒や掘立柱建物跡(奈良時代)、円形周溝遺構(古墳～奈良時代)、井戸跡(古墳～奈良時代)などが確認され住居跡からは古墳時代の青銅鏡、当時の人々が使用した土器や漆の付着した紙、紡錘車などの遺物が出土し、大規模な集落跡であることが分かりました。

現地説明会を初めて体験した中学生達も「近くでこ

んなすごい物があるとは驚いた」と興味を示してくれました。またプレハブの中でも展示された遺物について担当者に質問するなど、熱心に見学していました。

実際に身近に見て、感じて歴史や文化財に関心を深めて頂ければと思います。



施設紹介



「那須歴史探訪館」

江戸時代初期に五街道の一つとして整備された奥州街道。城下町でありながら宿場町としても栄えた芦野。

その芦野の中世芦野城址、近世旗本芦野氏の陣屋跡の麓に那須歴史探訪館があります。

入口となる陣屋裏門を抜けると茶臼岳を主峰とする那須連山が出迎え、展示館の旧石器時代から続く那須町の歴史へと誘ってくれます。展示是那須町の歴史資料を「道」「通史」「トピックスギャラリー」の三部門に分け紹介しています。旧石器時代の^{にかしむろ}進室遺跡から出土した石器をはじめ、縄文時

代の何耕地、追の窪遺跡などの石器・土器。古代東山道を通して伝来した堂平仏堂遺跡の仏像や古墳に見られる文化遺産。

那須氏の一族伊王野氏など武士の台頭の様子。近世領主による領地支配と奥州街道の流通と宿場の機能。明治維新以後における鉄道、国道の開設から那須町の誕生までを知ることができます。春は桜、夏は竹林、秋は紅葉、冬には那須おろしが出迎え、近隣には西行ゆかりの遊行柳や江戸時代の史跡が残る芦野宿。

那須町の歴史と自然を辿ってみてください。

那須町大字芦野2893番地 Tel. 0287-74-7007

写真/那須町教育委員会那須歴史探訪館提供

とちぎテレビ「古墳を探る」～塚原古墳群～

河内町下田原にある「塚原古墳群」では、直径約30mの円墳を2基(1・2号墳)発掘しています。5月に始まった調査は、現在では「横穴式石室」を発掘する段階に入っています。横穴式石室は、古墳の主の亡骸を納めた石積みの部屋で、古墳の中心になる重要な施設です。もともとは南側に入り口が開いていますが、1・2号墳とも、石室の上部から壊されていました。2号墳では天井の巨石(天井石)がかろうじて1枚だけ残っていました。この石は推定で4トンもあり、大型クレーンを使って安全な場所に^{ふくそうひん}移しました。その後で、石室内部にたまった土を掘り下げ、副葬品(死者と一緒に納められた刀などの品々)が残されているかを確かめてゆきます。



天井石の移動



とちぎテレビ放映日

1月18日(土) 17:30~17:50

『とちぎ教育新事情～古墳を探る～』で塚原古墳群の発掘の様子が放映されます。

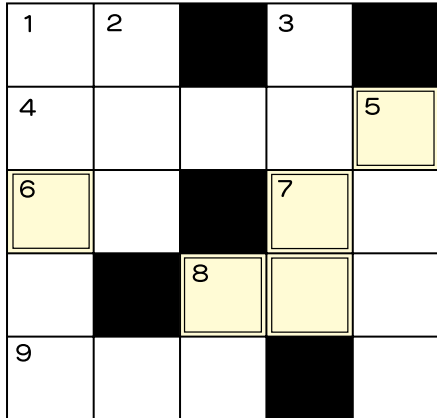
古墳発掘でも滅多に見る事の出来ない貴重な映像が見られるよ!

再放送は1月22日(水) 12:10~12:30

頭の体操をしましょう

クロスワードパズル

カギを参考に二重マスの字を並べ替えて下さい。



(クイズの解答はEメールまたはハガキで)

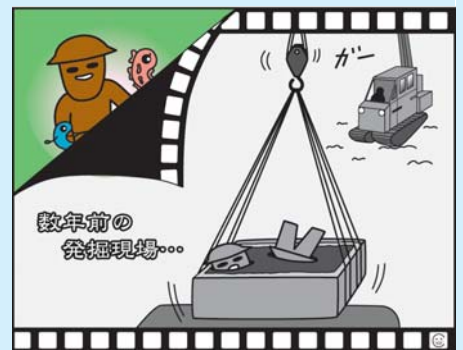
ヒント：2003年

- 《タテのカギ》
- 1 うでにするのはうで時計
 - 2 たな・机などに置いて使うのは○○○○○
 - 3 だい・○○・しゅう
 - 4 「天下の三戒壇」のひとつ
 - 5 南河内町の下野○○○○○
 - 6 爪を切る道具
 - 7 押す↓○○○

《ヨコのカギ》

- 1 人を笑わせて結びとする部分。話の○○
- 4 身動きがとれないさま
- 6 きん・ぎん・○○
- 7 「メ」。○○きり
- 8 藻類でミネラルを多く含んだ黒い食べ物
- 9 筆記や印刷のための液体

Honey & Magatama's はにまが by あ



お詫びと訂正

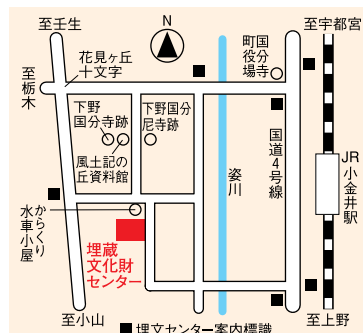
やまかいどう前号 (No.31) の7ページに掲載しました施設紹介「下野薬師寺歴史館」の写真が裏焼き(裏表が逆)になってしまいました。ここに訂正してお詫び申し上げます。



編集後記

今年は秋がなく急に冬になってしまったような寒い日が多く、世の中も暗い事が多い中、少しでも明るいニュースを送れるようにしたいと思います。でも「冬来たりなば春遠からじ」といいますからイヤな事ばかりではなくキット良い事もあると信じて頑張りたいですね。

編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
発行 栃木県埋蔵文化財センター
〒329-0416
栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474
TEL 0285-44-8441(代) FAX 0285-44-8445
E-mail webmaster@maibun.or.jp
URL http://www.maibun.or.jp/
印刷 ヤマゼン コミュニケーションズ(株)



《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から 約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から 約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から 約9km、車で約20分